



高都第259号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

高根沢町長 高 橋 克 法



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年 9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答いたしますのでよろしくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

栃木県高根沢町

行政は、住民誰もが納得する道路整備の基本を明確に示すことが必要である。

公共交通網が発達した都市部の道路とそれ以外の地域では道路そのものの意味するものも違っており、本町のような公共交通網が発達していない地域では、車なしでの生活が成り立たない。

本町が考える道路とは、大きな幹線道路はもちろんであるが、一番整備要望が多い身近な生活道路のことであり、その整備に関する財源を考慮していただきたい。たとえば、国や県主体の事業体系でなく、財源そのものを地方に移譲し、ある程度地方の裁量で道路に使えるような仕組みがほしい。

新たに整備する道路も必要であるうが、これからは今までに整備した道路の維持費に関しても考慮していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

栃木県高根沢町

○現状 道路や橋梁の老朽化に伴う維持費の増加 生活道路の整備要望が多い	○課題 道路を造るときには補助が受けられしたが、維持修繕となると財源の確保がむずかしい。 財源がきびしく、高規格ではない生活道路にも補助事業を適用できるような仕組みがほしい。
--	--

本町においては、幸いある程度の自動車中心の道路整備ができたものと考えている。現在、健康志向の高まりとガソリン高騰の影響で歩行者や自転車の利用が増えている。このような状況下にあって今後は歩行者や自転車等を中心に考え、バイロロジーの観点からの道路整備を必要と考えている。たとえば、自歩道の設置だけでなく経費的にも安価なカラー舗装での分離、生活道路においては、発想を逆転させ車がスピードを出せないような道づくりを行っていき交通弱者の安全を図っていく。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

栃木県高根沢町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・効率的な事業の推進	道路評価基準システム	舗装等の要望のある町管理道路を45項目の評価指標により点数化し順位付けをすることにより、限られた予算を効率的に運用でき、また、人の意見に左右されず客観的に必要性が判断できる。	
・地域の力の活用	道普請事業	町で資材を提供するかわりに地域で労力を提供してもらい、砂利道をコンクリート舗装する事業である。道路評価基準システムで順位が上位でない箇所を補完する事業でもある。昔は道路が地域社会を支えるコミュニケーションの場であり、暮らしの場でもあった。その精神を取り戻すことにより地域の絆が強くなったり、また、道路もきれいになる。町でも経費が削減できるメリットがある。	